

第2章 障害学生支援の実施状況

京都大学 助教 村田 淳

障害学生支援の実施校数・実施率

(1) 授業支援実施校数の推移

授業支援実施校数は、調査初年度の平成17年度は206校、平成18年度には397校、平成19年度には485校と調査開始からの数年間で大幅な増加推移を示している。この時期、障害学生の在籍者数も同様に増加しており、支援を必要とする学生の増加により授業支援実施校数が増加したものと考えられる。

今後は、平成25年の障害者差別解消法の成立（合理的配慮規定等は平成28年4月施行）や平成26年の国連障害者権利条約を批准したことなどを背景に、さらに授業支援のニーズが増加することが予想される。

(2) 授業以外の支援実施校数の推移

授業以外の支援実施校数は、調査に盛り込まれた平成21年度は429校であり、その後も増加している。平成24年度までは授業支援の実施校数をやや下回る推移であったが、平成25年度の調査では授業以外の支援が授業支援の実施校数を上回った。

(3) 学校規模別の授業支援実施校数・実施率

平成25年度の調査によると、授業支援の実施校数は621校で、前年度の601校より20校の増加となっている。学校規模別の授業支援の実施率は、最も実施率が高くなっているのは学生数「10,000人以上」の規模の学校で97.0%、次いで「5,000人～9,999人」の規模の学校が89.6%、「2,000～4,999人」の規模の学校が76.5%となっている。一方、学校規模が小さな学校では、「500～999人」の学校で43.9%、「1～499人」の学校では23.1%と実施率が低い。学校規模が大きいほど高い実施率となる傾向がある。

授業支援の実施状況

(1) 授業支援実施校数

平成25年度の調査によると、授業支援を実施している学校（621校）のうち、障害種別の内訳は、「視覚障害」が171校、「聴覚・言語障害」が276校、「肢体不自由」が351校、「病弱・虚弱」が145校、「重複」が88校、「発達障害」が280校、「その他」が207校となっており、最も多いのは「肢体不自由」、次いで「発達障害」となっている。障害学生の増加に伴い授業支援の実施校数も増加しているが、やや緩やかな増加傾向となっている。

障害種別の推移をみると、「視覚障害」「肢体不自由」はやや増加傾向、「聴覚・言語障害」はほぼ横ばいとなっている一方、「発達障害」「病弱・虚弱」「その他」は顕著に増加

している。特に、「発達障害」は平成 18 年度に授業支援を実施していた 22 校から大幅に増加している。

(2) 授業支援実施状況

障害種に合わせて様々な支援が実施されているが、障害種によっては支援方法が徐々に変化していることも読み取ることができる。より良い支援方法への転換や機器の導入などに加えて、「発達障害」に代表される障害学生の新たなニーズへの対応が必要となっている状況ではないだろうか。

(3) 学校種別の授業支援実施状況

支援内容に関わらず、全体的に大学に比べて短期大学、高等専門学校の授業支援の実施率は低くなっている。

学校種別の授業支援の内容で特徴的なこととして、情報保障に関する項目で大きく差異がある。例えば、「手話通訳」「ノートテイク」「パソコンテイク」の実施率を学校種別に比較すると、大学では「手話通訳」が 13.6%、「ノートテイク」が 34.4%、「パソコンテイク」が 23.0%となっていることに対して、短期大学、高等専門学校では実施率が低くなっている。

授業以外の支援の実施状況

(1) 授業以外の支援実施校数

平成 25 年度の調査によると、授業以外の支援を実施している学校は 651 校であった。障害種別の支援実施校数は、「視覚障害」が 88 校、「聴覚・言語障害」が 141 校、「肢体不自由」が 277 校、「病弱・虚弱」が 145 校、「重複」が 61 校、「発達障害」が 336 校、「その他」が 220 校となっており、最も多いのは「発達障害」、次いで「肢体不自由」となっている。特に「発達障害」は授業支援よりも授業以外の支援が多くなっていることが特徴的である。また、「聴覚・言語障害」は授業支援の実施校数が多い一方で、授業以外の支援は比較的少なくなっている。

(2) 授業以外の支援実施状況

授業以外の支援は「発達障害」が最も実施校数が多く、実施率も高い。保護者・専門家・支援機関・出身校などとの連携の実施率が高くなっていること、また学習・社会的スキルの指導も高くなっていることから、支援の幅の広さが読み取れる。

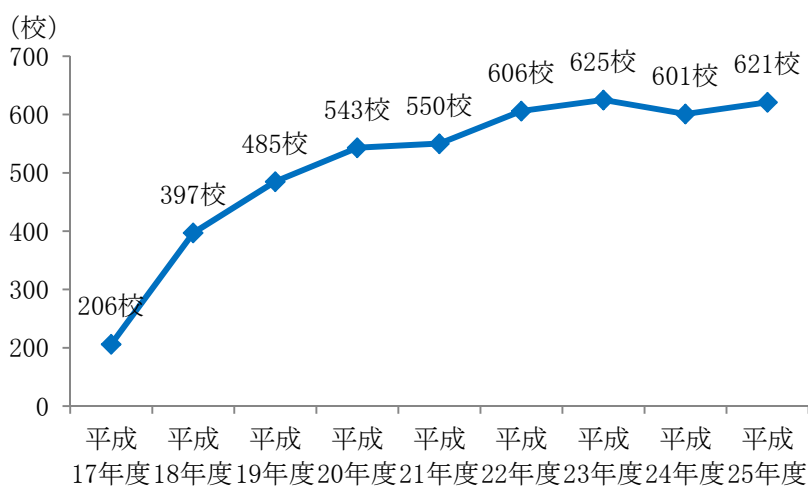
また、いずれの障害種でも「進路・就職指導」の実施率が高くなっており、障害学生の就職には一定の課題があることが推測される。障害学生の支援は授業だけにとどまらず、授業に間接的に影響する学生生活の様々な場面での支援も実施していく必要があるのではないだろうか。

1. 障害学生支援の実施校数・実施率

(1) 授業支援実施校数の推移

授業支援実施校数は、調査初年度の平成17年度は206校、平成18年度には397校、平成19年度には485校と調査開始からの数年間で大幅な増加推移を示している。この時期、障害学生の在籍者数も同様に増加しており、支援を必要とする学生の増加により授業支援実施校数が増加したものと考えられる。

平成22年度には606校となったが、その後は600校前半で推移している。本調査の対象校数は1,190校（平成25年度）であることから、全体の半数以上の学校で授業支援が実施されていることがわかる。平成22年度以降、大幅な増加がなく600校台で推移している理由としては、授業支援を必要としない障害学生の増加が考えられる。ひとつの要因としては、障害学生支援の広がり背景に、授業支援は必要としないが個別相談・支援等を必要とする障害学生（発達障害のある学生等）の把握が進んだことが考えられる（図24）。



今後は、平成25年の障害者差別解消法の成立（合理的配慮規定等は平成28年4月施行）や平成26年の国連障害者権利条約への批准などを背景に、さらに授業支援のニーズが増加することが予想される。

図24 授業支援実施校数の推移

(2) 授業以外の支援実施校数の推移

授業以外の支援実施校数は、調査に盛り込まれた平成21年度は429校であり、その後も増加している。平成24年度までは授業支援の実施校数をやや下回る推移であったが、平成25年度の調査では授業以外の支援が授業支援の実施校数を上回った。障害学生支援が授業の支援にとどまらず、学生生活の様々な場面で実施されつつあることがわかる（図25）。

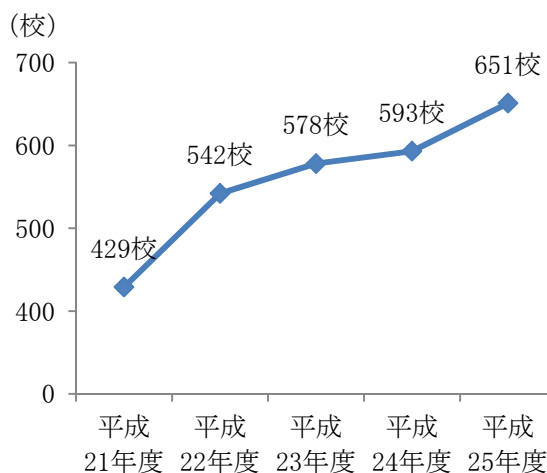


図25 授業以外の支援実施校数の推移

(注) 実施校数には、発達障害（診断書無配慮有）学生への支援実施校を含む

(3) 学校規模別の授業支援実施校数・実施率

平成25年度の調査によると、授業支援の実施校数は621校で、前年度の601校より20校の増加となっている。学校規模別に授業の実施校数を比較すると、最も実施校数が多いのは学生数「2,000～4,999人」の規模の学校で137校、次いで「1,000人～1,999人」の規模の学校で129校などとなっている。その他、最も小さな規模となる学生数「1～499人」の学校が88校、学生数「10,000人以上」の規模の学校では65校などとなっている。

学校規模別の授業支援の実施率は、最も実施率が高くなっているのは学生数「10,000人以上」の規模の学校で97.0%、次いで「5,000人～9,999人」の規模の学校が89.6%、「2,000～4,999人」の規模の学校が76.5%となっている。一方、学校規模が小さな学校では、「500～999人」の学校で43.9%、「1～499人」の学校では23.1%と実施率が低くなっている。学校規模が大きいほど高い実施率となる傾向がある(図26)。

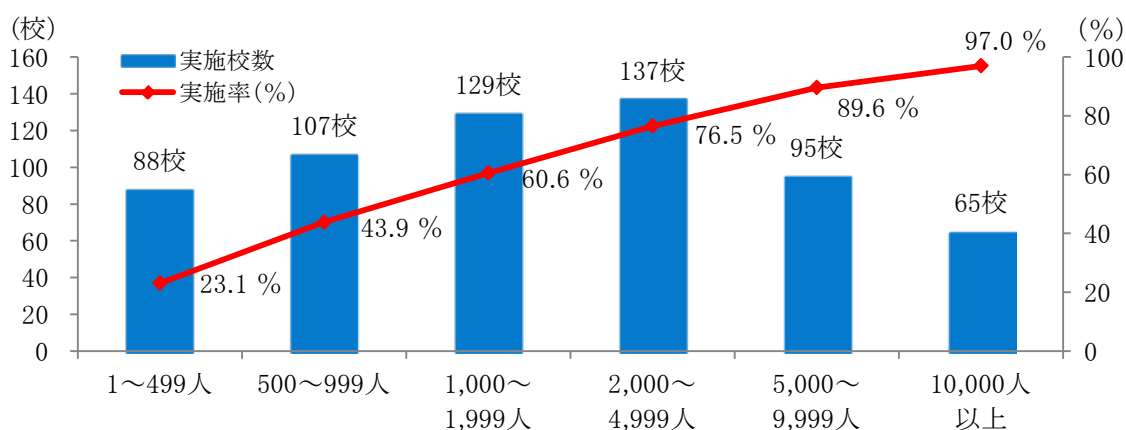


図26 【学校規模別】授業支援実施校数 ※平成25年度

専門部署の設置校数(図27)及び専任担当者の配置(図28)を参照すると、大規模な学校ほど設置率・配置率が高いことから、授業支援の実施率との幾分かの相関性はあると考えられる。小規模の学校でも他部署での対応や兼任担当者は配置されているが(60～80%程度)、授業支援の実施率は低くなっている。

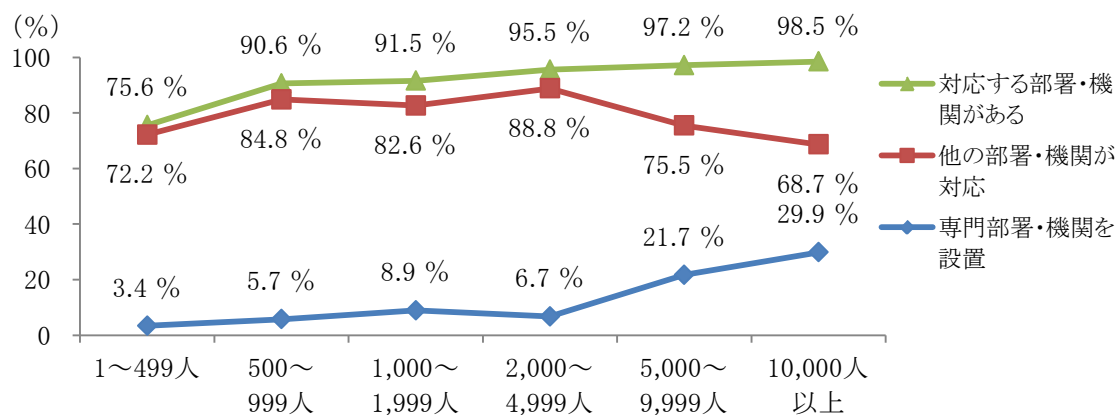


図27 【学校規模別】障害学生支援担当部署・機関設置率 ※平成25年度

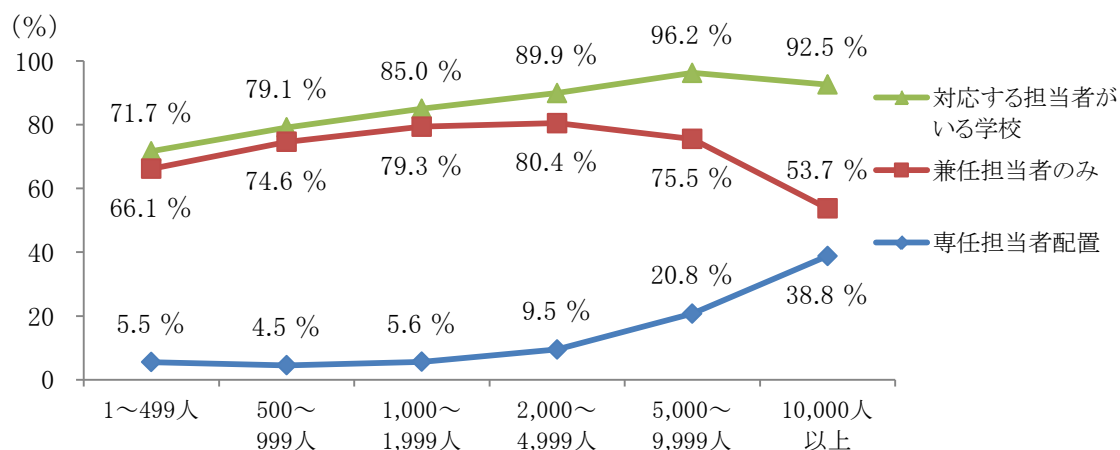


図28 「学校規模別」障害学生支援担当者配置率 ※平成25年度

2. 授業支援の実施状況

(1) 授業支援実施校数

平成25年度の調査によると、授業支援を実施している学校（621校）のうち、障害種別の内訳は、「視覚障害」が171校、「聴覚・言語障害」が276校、「肢体不自由」が351校、「病弱・虚弱」が145校、「重複」が88校、「発達障害」が280校、「その他」が207校となっており、最も多いのは「肢体不自由」、次いで「発達障害」となっている。障害学生の増加に伴い授業支援の実施校数も増加しているが、やや緩やかな増加傾向となっている（表1）。

表1 「障害種別・学校種別」授業支援実施状況 ※平成25年度(平成24年度)

区 分	大学 (校)	短期大学 (校)	高等 専門学校 (校)	計 (校)
視覚障害	158 (149)	8 (7)	5 (4)	171 (160)
聴覚・言語障害	242 (243)	23 (34)	11 (12)	276 (289)
肢体不自由	310 (301)	29 (26)	12 (14)	351 (341)
病弱・虚弱	125 (133)	12 (14)	8 (4)	145 (151)
重複	82 (69)	6 (5)	0 (0)	88 (74)
発達障害	235 (209)	18 (21)	27 (28)	280 (258)
その他	171 (146)	28 (18)	8 (5)	207 (169)
障害種別区分なし	491 (475)	90 (89)	40 (37)	621 (601)

障害種別の推移（図29）をみると、「視覚障害」「肢体不自由」はやや増加傾向、「聴覚・言語障害」はほぼ横ばいとなっている一方、「発達障害」「病弱・虚弱」「その他」は顕著に増加している。特に、「発達障害」は平成18年度に授業支援を実施していた22校から大幅に増加している。従来、「肢体不自由」「聴覚・言語障害」「視覚障害」が障害学生支援の中心

であったが、この数年間で状況が大きく変化している。各学校で実施している授業支援については、多様化していることがわかる。

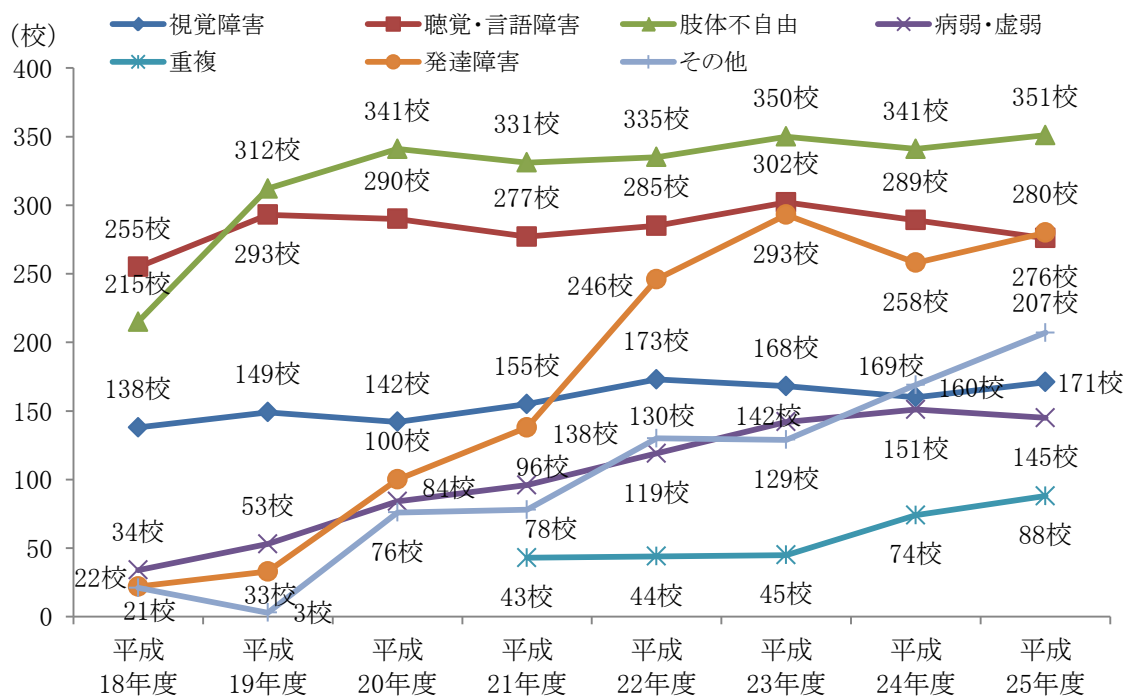


図29 【障害種別】授業支援実施校数の推移

(2) 授業支援実施状況

平成25年度の調査によれば、障害種別ごとに様々な支援が実施されていることがわかる。

支援の実施率を障害種別に比較すると、「視覚障害」の授業支援の内容は「教室内座席配慮」が56.7%と最も高く、次いで「教材の拡大」が53.2%、「試験時間延長・別室受験」が50.3%などとなっている。支援者別にみると、「ガイドヘルプ」などは学生が支援を実施するケースが多いが、「教材の拡大」「教材のテキストデータ化」は教職員が支援を実施するケースが多い。また、「点訳・墨訳」は外部の支援者が支援を実施している学校が多い。要因としては、点字プリンタなどの機器が学校に無いこと、点字の編集などある程度のスキルが必要となることから、教職員や学生が支援を実施するのが難しいことが考えられる。また、経年推移をみると、「点訳・墨訳」がやや減少傾向にある一方、「教材のテキストデータ化」が増加している。

「聴覚・言語障害」の授業支援の内容は「ノートテイク」が55.8%と最も高く、次いで、「教室内座席配慮」が47.5%、「パソコンテイク」が38.4%などとなっている。経年推移をみると「ノートテイク」は減少傾向にある一方、「パソコンテイク」が増加している。大学等における情報保障の方法として、「ノートテイク」と並んで「パソコンテイク」が普及し始めていることが読み取れる。また、このような情報保障を実施する支援者は、ほとんどが学生である。一方、「手話通訳」については、外部の支援者が支援を実施している学校が多い。「手話通訳」は「視覚障害」における「点訳・墨訳」と同様に、専門的なスキルが必要と

なるため、外部の支援者が多くなっていると推測される。

「肢体不自由」の授業支援の内容は「教室内座席配慮」が 58.1%と最も高く、次いで「使用教室配慮」「実技・実習配慮」が 51.0%、「専用机・イス・スペース確保」が 49.3%などとなっており、支援の内容の多くがハード面に関する支援となっていることがわかる。支援者が支援を実施するものとしては、「ガイドヘルプ（10.8%）」「ノートテイク（8.0%）」などがあり、支援は学生が実施している学校が多くなっている。

「病弱・虚弱」の授業支援の内容は「実技・実習配慮」が 37.2%と最も高く、次いで「休憩室の確保」が 31.7%、「その他」が 31.0%などとなっている。「その他」が多くなっていることから、より個別の状況に即して支援を実施していることが読み取れる。一方、支援者が関わる支援はわずかとなっている。また、「病弱・虚弱」は障害学生の在籍者数は多いものの、授業支援を実施している学校数はそれほど多くない。

「重複」の授業支援の内容は「教室内座席配慮」が 53.4%と最も高く、次いで「試験時間延長・別室受験」が 43.2%、「使用教室配慮」が 39.8%などとなっている。その他、「点訳・墨訳（6.8%）」「ノートテイク（22.7%）」なども実施されていることから、多様な支援が実施されていることがわかる。

「発達障害」の授業支援の内容は「その他」が 38.9%と最も高く、次いで「注意事項等文書伝達」が 29.3%、「実技・実習配慮」が 28.9%となっている。「その他」が最も高いことから、支援内容が多様化していることがわかる。平成 25 年度の調査によれば、「発達障害」は「肢体不自由」に次いで授業支援の実施校数が多い。一方、現時点では支援方法が固定されていない状況も読み取れるため、授業支援を実施するにあたり難しさがあることが推測される。

「その他」の障害の授業支援の内容は「その他」が 37.7%と最も高く、次いで「休憩室の確保」が 31.4%、「教室内座席配慮」が 23.2%などとなっている。「発達障害」と同様に支援内容は「その他」が最も高いことから、様々な支援が実施されていることがわかる。

障害種に合わせて様々な支援が実施されているが、障害種によっては支援方法が徐々に変化していることも読み取ることができる。より良い支援方法への転換や機器の導入などに加えて、「発達障害」に代表される障害学生の新たなニーズへの対応が必要となっている状況ではないだろうか（表 2、図 30 詳細は附表 7 参照）。

表2 〔授業支援内容別・障害種別〕授業支援実施状況 ※平成25年度(平成24年度)

区分	視覚障害					聴覚・言語障害					肢体不自由					病弱・虚弱				
	実施校数	実施率	支援者			実施校数	実施率	支援者			実施校数	実施率	支援者			実施校数	実施率	支援者		
			教職員	学生	外部			教職員	学生	外部			教職員	学生	外部			教職員	学生	外部
(校)	(%)	(校)	(校)	(校)	(校)	(%)	(校)	(校)	(校)	(校)	(%)	(校)	(校)	(校)	(校)	(%)	(校)	(校)	(校)	
1 点訳・墨紙	48 (44)	28.1 (27.5)	21 (23)	12 (10)	35 (34)	1 (1)	0.4 (0.3)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0.0 (0.0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0.0 (0.0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
2 教材のテキストデータ化	60 (56)	35.1 (35.0)	42 (48)	29 (22)	12 (13)	7 (6)	2.5 (2.1)	5 (4)	1 (3)	1 (1)	8 (7)	2.3 (2.1)	8 (6)	2 (3)	1 (0)	0 (0)	0.0 (0.0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
3 教材の拡大	91 (85)	53.2 (53.1)	83 (84)	14 (18)	2 (1)	3 (5)	1.1 (1.7)	2 (5)	1 (0)	0 (0)	11 (15)	3.1 (4.4)	11 (15)	0 (2)	0 (0)	2 (0)	1.4 (0.0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)
4 ガイドヘルプ	42 (31)	24.6 (19.4)	23 (23)	32 (27)	1 (0)	6 (4)	2.2 (1.4)	2 (3)	4 (0)	1 (0)	38 (45)	10.8 (13.2)	16 (17)	30 (34)	8 (13)	2 (3)	1.4 (2.0)	1 (1)	1 (2)	1 (1)
5 リーディングサービス	36 (28)	21.1 (17.5)	17 (15)	20 (21)	1 (1)	1 (2)	0.4 (0.7)	0 (2)	0 (1)	1 (0)	2 (1)	0.6 (0.3)	0 (0)	1 (0)	1 (1)	0 (0)	0.0 (0.0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
6 手話通訳	2 (1)	1.2 (0.6)	0 (0)	1 (1)	2 (0)	72 (60)	26.1 (20.8)	11 (15)	20 (27)	58 (62)	0 (0)	0.0 (0.0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0.0 (0.0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
7 ノートテイク	18 (16)	10.5 (10.0)	0 (0)	18 (17)	3 (1)	154 (161)	55.8 (55.7)	20 (22)	145 (172)	42 (48)	28 (34)	8.0 (10.0)	3 (1)	24 (31)	3 (6)	1 (0)	0.7 (0.0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)
8 パソコンテイク	8 (8)	4.7 (5.0)	1 (2)	7 (8)	3 (1)	106 (92)	38.4 (31.8)	22 (23)	91 (89)	36 (35)	8 (7)	2.3 (2.1)	2 (1)	5 (4)	2 (2)	0 (0)	0.0 (0.0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
9 ビデオ教材字幕付け	5 (7)	2.9 (4.4)	1 (3)	4 (4)	1 (1)	59 (57)	21.4 (19.7)	32 (32)	41 (50)	10 (10)	1 (1)	0.3 (0.3)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0.0 (0.0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
10 ティーチング又はティーチング・アシスタントの活用	32 (30)	18.7 (18.8)	10 (13)	26 (26)	2 (3)	20 (21)	7.2 (7.3)	6 (8)	16 (17)	1 (1)	21 (22)	6.0 (6.5)	7 (12)	15 (14)	5 (4)	5 (7)	3.4 (4.6)	3 (3)	2 (7)	1 (1)
11 試験時間延長・別室受験	86 (75)	50.3 (46.9)	-	-	-	19 (11)	6.9 (3.9)	-	-	-	108 (117)	30.8 (34.3)	-	-	-	9 (11)	6.2 (7.3)	-	-	-
12 解答方法配慮	78 (66)	45.6 (41.3)	-	-	-	20 (21)	7.2 (7.3)	-	-	-	64 (76)	18.2 (22.3)	-	-	-	4 (4)	2.8 (2.6)	-	-	-
13 パソコンの持込使用許可	51 (43)	29.8 (26.9)	-	-	-	26 (23)	9.4 (8.0)	-	-	-	54 (61)	15.4 (17.9)	-	-	-	2 (3)	1.4 (2.0)	-	-	-
14 注意事項等文書提供	46 (41)	26.9 (25.6)	-	-	-	103 (101)	37.3 (34.9)	-	-	-	34 (32)	9.7 (9.4)	-	-	-	20 (13)	13.8 (8.6)	-	-	-
15 使用教室配慮	34 (32)	19.9 (20.0)	-	-	-	21 (28)	7.6 (9.7)	-	-	-	179 (173)	51.0 (50.7)	-	-	-	19 (17)	13.1 (11.3)	-	-	-
16 実技・実習配慮	58 (56)	33.9 (35.0)	-	-	-	66 (72)	23.9 (24.9)	-	-	-	179 (172)	51.0 (50.4)	-	-	-	54 (61)	37.2 (40.4)	-	-	-
17 教室内座席配慮	97 (73)	56.7 (45.6)	-	-	-	131 (132)	47.5 (45.7)	-	-	-	204 (206)	58.1 (60.4)	-	-	-	28 (30)	19.3 (19.9)	-	-	-
18 FM補聴器・マイク使用	1 (0)	0.6 (0.0)	-	-	-	83 (88)	30.1 (30.4)	-	-	-	5 (2)	1.4 (0.6)	-	-	-	2 (0)	1.4 (0.0)	-	-	-
19 専用机・イス・スペース確保	15 (19)	8.8 (11.9)	-	-	-	14 (21)	5.1 (7.3)	-	-	-	173 (176)	49.3 (51.6)	-	-	-	4 (4)	2.8 (2.6)	-	-	-
20 読み上げソフト使用	47 (41)	27.5 (25.6)	-	-	-	1 (4)	0.4 (1.4)	-	-	-	3 (2)	0.9 (0.6)	-	-	-	0 (0)	0.0 (0.0)	-	-	-
21 講義内容録音許可	27 (32)	15.8 (20.0)	-	-	-	23 (31)	8.3 (10.7)	-	-	-	51 (54)	14.5 (15.8)	-	-	-	5 (7)	3.4 (4.6)	-	-	-
22 休憩室の確保	29 (24)	17.0 (15.0)	-	-	-	27 (19)	9.8 (6.6)	-	-	-	75 (82)	21.4 (24.0)	-	-	-	46 (54)	31.7 (35.8)	-	-	-
23 その他	36 (40)	21.1 (25.0)	-	-	-	43 (39)	15.6 (13.5)	-	-	-	68 (63)	19.4 (18.5)	-	-	-	45 (42)	31.0 (27.8)	-	-	-
実施校数	171 (160)		110 (107)	74 (69)	41 (35)	276 (289)		58 (57)	164 (174)	82 (82)	351 (341)		43 (44)	57 (60)	13 (16)	145 (151)		6 (4)	3 (6)	1 (1)
* 授業以外の支援	88 (70)		-	-	-	141 (132)		-	-	-	277 (196)		-	-	-	145 (129)		-	-	-

※各障害種別に授業支援内容は複数回答あり
 ※実施率:授業支援実施校数÷実施校数の計×100(%)

区 分		重複					発達障害					その他					実施校数	実施率
		実施校数	実施率	支援者			実施校数	実施率	支援者			実施校数	実施率	支援者				
				教職員	学生	外部			教職員	学生	外部			教職員	学生	外部		
(校)	(%)	(校)	(校)	(校)	(校)	(%)	(校)	(校)	(校)	(校)	(%)	(校)	(校)	(校)	(校)	(%)		
1	点訳・筆訳	6 (7)	6.8 (9.5)	4 (3)	4 (2)	4 (5)	0 (0)	0.0 (0.0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0.0 (0.0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	50 (46)	8.1 (7.7)
2	教材のテキストデータ化	10 (8)	11.4 (10.8)	7 (6)	5 (4)	4 (1)	2 (1)	0.7 (0.4)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0.0 (0.0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	74 (66)	11.9 (11.0)
3	教材の拡大	11 (11)	12.5 (14.9)	11 (11)	2 (1)	0 (0)	5 (3)	1.8 (1.2)	5 (3)	0 (0)	0 (0)	4 (3)	1.9 (1.8)	3 (3)	1 (0)	0 (0)	112 (106)	18.0 (17.6)
4	ガイドヘルプ	18 (18)	20.5 (24.3)	10 (10)	14 (13)	6 (5)	7 (7)	2.5 (3.9)	5 (9)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	0.5 (1.2)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	85 (86)	13.7 (14.3)
5	リーディングサービス	5 (4)	5.7 (6.4)	3 (2)	3 (2)	1 (0)	0 (0)	0.0 (0.0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0.0 (0.0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	39 (31)	6.3 (6.2)
6	手話通訳	0 (3)	0.0 (4.1)	0 (1)	0 (1)	0 (2)	0 (0)	0.0 (0.0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0.0 (0.0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	72 (61)	11.6 (10.1)
7	ノートテイク	20 (15)	22.7 (20.3)	4 (5)	18 (12)	2 (7)	10 (7)	3.6 (2.7)	0 (1)	10 (6)	1 (1)	6 (5)	2.9 (3.0)	1 (1)	3 (5)	2 (0)	183 (191)	29.5 (31.8)
8	パソコンテイク	4 (5)	4.5 (6.8)	2 (4)	4 (3)	1 (1)	3 (1)	1.1 (0.0)	1 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	0.5 (0.0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	117 (99)	18.8 (16.5)
9	ビデオ教材字幕付け	3 (5)	3.4 (6.8)	2 (5)	1 (2)	0 (0)	1 (0)	0.4 (0.0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0.5 (0.0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	63 (60)	10.1 (10.0)
10	チャーター又はタイピングがアシスタントの活用	6 (9)	6.8 (12.2)	2 (4)	4 (8)	2 (2)	45 (38)	16.1 (14.7)	24 (25)	31 (26)	8 (4)	19 (10)	9.2 (5.9)	9 (6)	11 (5)	3 (1)	94 (87)	15.1 (14.5)
11	試験時間延長・別室受験	38 (32)	43.2 (43.2)	- (-)	- (-)	- (-)	47 (46)	16.8 (17.8)	- (-)	- (-)	- (-)	34 (34)	16.4 (20.1)	- (-)	- (-)	- (-)	200 (207)	32.2 (34.4)
12	解答方法配慮	29 (21)	33.0 (28.4)	- (-)	- (-)	- (-)	29 (19)	10.4 (7.4)	- (-)	- (-)	- (-)	12 (9)	5.8 (5.3)	- (-)	- (-)	- (-)	155 (152)	25.0 (25.3)
13	パソコンの持込使用許可	19 (15)	21.6 (20.3)	- (-)	- (-)	- (-)	17 (16)	6.1 (6.2)	- (-)	- (-)	- (-)	6 (4)	2.9 (2.4)	- (-)	- (-)	- (-)	123 (112)	19.8 (18.6)
14	注意事項等支書伝達	14 (13)	15.9 (17.6)	- (-)	- (-)	- (-)	82 (75)	29.3 (29.1)	- (-)	- (-)	- (-)	37 (30)	17.9 (17.8)	- (-)	- (-)	- (-)	196 (195)	31.6 (32.4)
15	使用教室配慮	35 (20)	39.8 (27.0)	- (-)	- (-)	- (-)	22 (22)	7.9 (8.5)	- (-)	- (-)	- (-)	18 (9)	8.7 (5.3)	- (-)	- (-)	- (-)	236 (219)	38.0 (36.4)
16	実技・実習配慮	32 (25)	36.4 (33.8)	- (-)	- (-)	- (-)	81 (83)	28.9 (32.2)	- (-)	- (-)	- (-)	56 (36)	27.1 (21.3)	- (-)	- (-)	- (-)	297 (292)	47.8 (48.6)
17	教室内座席配慮	47 (36)	53.4 (48.6)	- (-)	- (-)	- (-)	65 (64)	23.2 (24.8)	- (-)	- (-)	- (-)	48 (42)	23.2 (24.9)	- (-)	- (-)	- (-)	367 (349)	59.1 (58.1)
18	FM補聴器・マイク使用	5 (5)	5.7 (6.8)	- (-)	- (-)	- (-)	3 (2)	1.1 (0.8)	- (-)	- (-)	- (-)	0 (1)	0.0 (0.6)	- (-)	- (-)	- (-)	93 (95)	15.0 (15.8)
19	専用机・イス・スペース確保	28 (21)	31.8 (28.4)	- (-)	- (-)	- (-)	3 (8)	1.1 (3.1)	- (-)	- (-)	- (-)	3 (3)	1.4 (1.8)	- (-)	- (-)	- (-)	194 (204)	31.2 (33.9)
20	読み上げソフト使用	7 (5)	8.0 (6.8)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (0)	0.4 (0.0)	- (-)	- (-)	- (-)	0 (0)	0.0 (0.0)	- (-)	- (-)	- (-)	53 (47)	8.5 (7.8)
21	講義内容録音許可	13 (11)	14.8 (14.9)	- (-)	- (-)	- (-)	45 (43)	16.1 (16.7)	- (-)	- (-)	- (-)	12 (9)	5.8 (5.3)	- (-)	- (-)	- (-)	123 (126)	19.8 (21.0)
22	休憩室の確保	19 (15)	21.6 (20.3)	- (-)	- (-)	- (-)	72 (89)	25.7 (34.5)	- (-)	- (-)	- (-)	65 (70)	31.4 (41.4)	- (-)	- (-)	- (-)	181 (187)	29.1 (31.1)
23	その他	23 (25)	26.1 (33.8)	- (-)	- (-)	- (-)	109 (86)	38.9 (33.3)	- (-)	- (-)	- (-)	78 (62)	37.7 (36.7)	- (-)	- (-)	- (-)	214 (194)	34.5 (32.3)
実施校数		88 (74)		22 (24)	29 (26)	13 (14)	280 (258)		34 (36)	41 (32)	9 (5)	207 (169)		15 (11)	14 (11)	4 (1)	621 (601)	
*	授業以外の支援	61 (48)		- (-)	- (-)	- (-)	336 (308)		- (-)	- (-)	- (-)	220 (177)		- (-)	- (-)	- (-)	539 (480)	

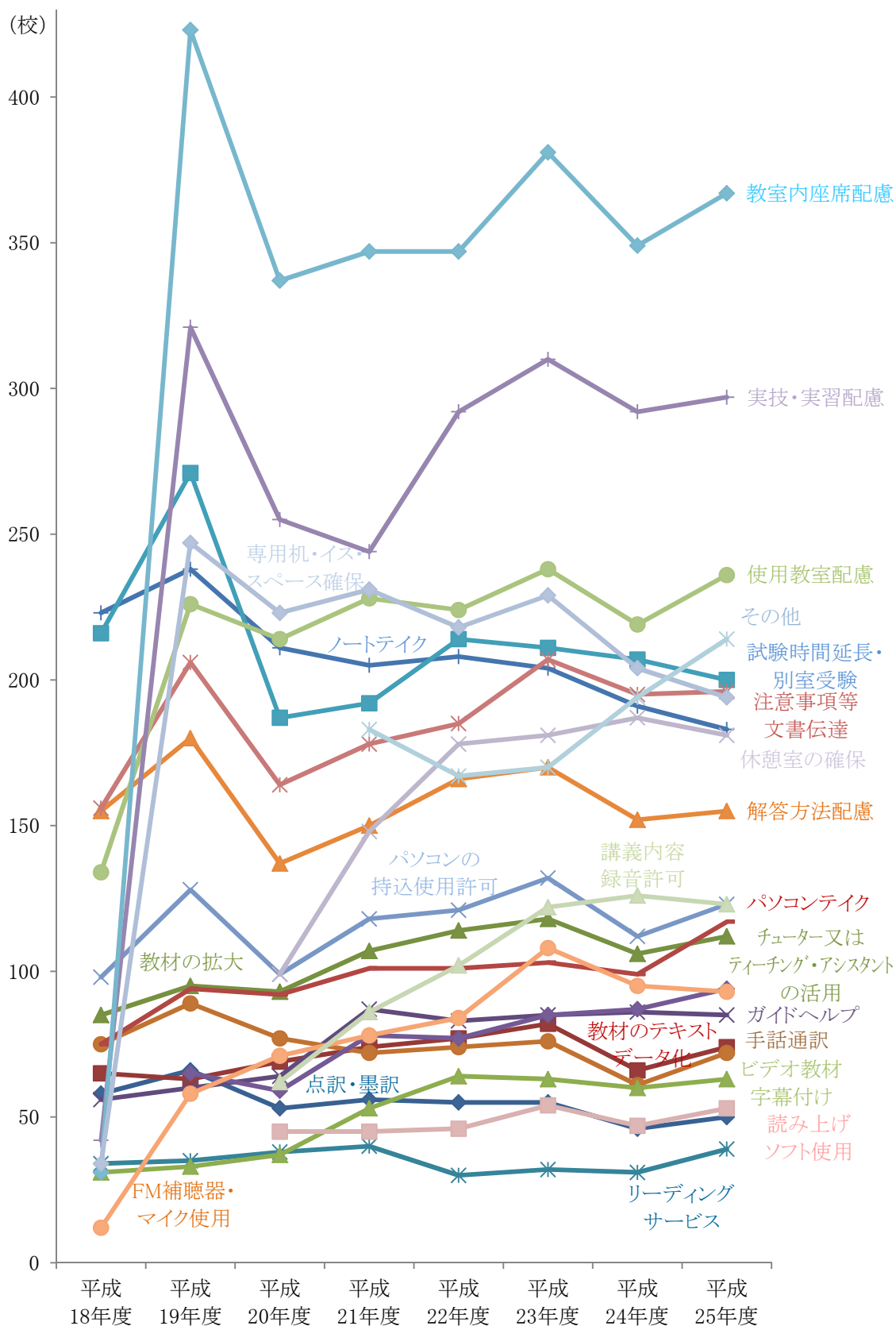


図30 授業支援実施校数の推移（支援内容別）

(3) 学校種別の授業支援実施状況

平成 25 年度の調査によれば、支援内容に関わらず、全体的に大学に比べて短期大学、高等専門学校での授業支援の実施率は低くなっている。また、いずれの学校種別においても、「教室内座席配慮」や「実技・実習配慮」は実施率が高くなっていることがわかる。学校種別の授業支援の内容で特徴的なこととして、情報保障に関する項目で大きく差異がある。例えば、「手話通訳」「ノートテイク」「パソコンテイク」の実施率を学校種別に比較すると、大学(図 31)では「手話通訳」が 13.6%、「ノートテイク」が 34.4%、「パソコンテイク」が 23.0%となっていることに対して、短期大学(図 32)では「手話通訳」が 5.6%、「ノートテイク」が 15.6%、「パソコンテイク」が 4.4%となっており実施率に大きな差があることがわかる。さらに、高等専門学校(図 33)においては「手話通訳」「ノートテイク」「パソコンテイク」の実施率はいずれも 0.0%となっている。平成 25 年度、高等専門学校には「聴覚・言語障害」の学生が 36 名(うち 3 名は言語障害のみ)在籍している(表 3)が「手話通訳」「ノートテイク」「パソコンテイク」「ビデオ教材字幕付け」などの情報保障は実施されていないということである(「座席配慮」「FM補聴器・マイク使用」などは実施されている)。「ノートテイク」や「パソコンテイク」は学生が支援者として支援を実施していることが多い。基本的に、学生は自らの授業が無い空き時間に支援を実施することが多いと思わ

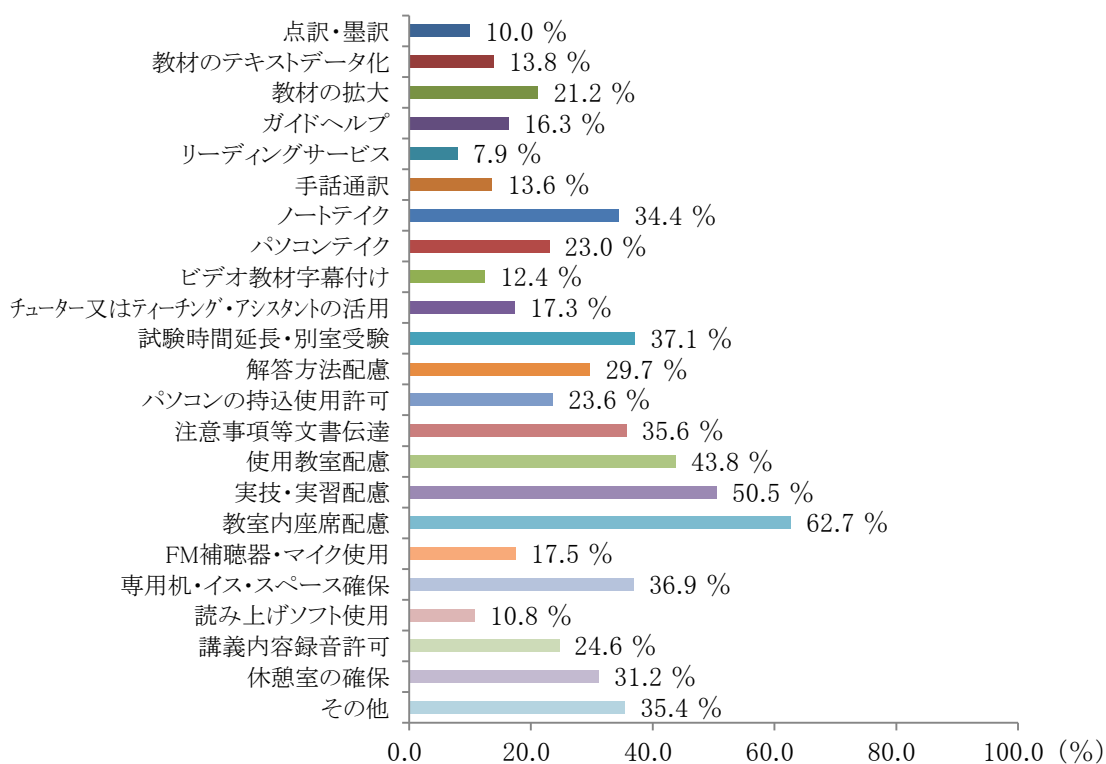


図31 【内容別】授業支援実施率(大学) ※平成25年度

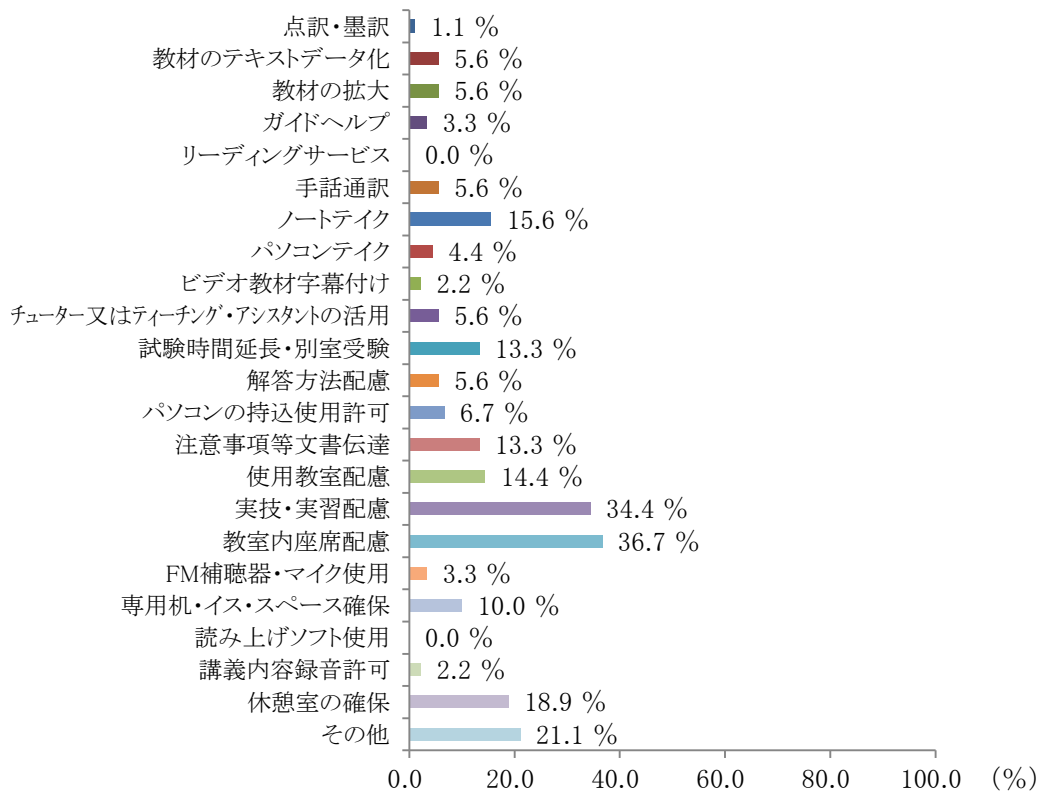


図32 【内容別】授業支援実施率（短期大学）※平成25年度

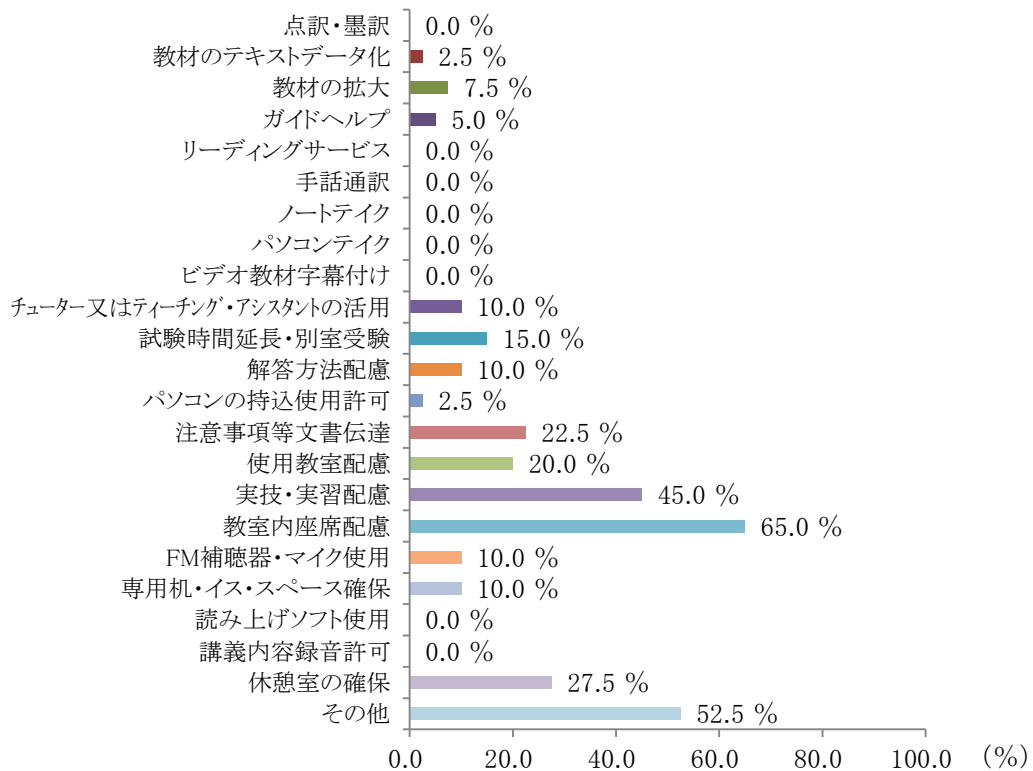


図33 【内容別】授業支援実施率（高等専門学校）※平成25年度

れるが、短期大学や高等専門学校の場合、時間割等が固定されている、また空き時間が少ないなどが要因で障害学生の支援を実施しにくい状況があると推測される。一方、短期大学や高等専門学校ではクラスが固定されているなど、周囲の学生の協力を得やすい状況があることが考えられる。さらに、大学に比べて教室がそれほど大きくないというような状況も想定され、「教室内座席配慮」などがより効果的であるということも考えられるだろう。

表3 【障害種別・学科（専攻）別】障害学生数（高等専門学校）※平成25年度

区 分		社 会	工 業	商 船	芸 術	計	
		(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	
高等専門学校	視覚障害	盲	0	0	0	0	0
		弱視	1	12	0	0	13
		小計	1	12	0	0	13
	言聴 語覚 障・ 害	聾	0	2	0	0	2
		難聴	0	30	1	0	31
		言語障害のみ	0	3	0	0	3
		小計	0	35	1	0	36
	不肢 自由	上肢機能障害	0	7	0	0	7
		下肢機能障害	0	10	0	0	10
		上下肢機能障害	0	7	0	0	7
		他の機能障害	0	4	0	0	4
		小計	0	28	0	0	28
	病弱・虚弱		0	57	0	0	57
	重複		0	0	0	0	0
	（発 達 障 害 有 ）	LD	0	11	0	0	11
		ADHD	0	49	1	0	50
		高機能自閉症等	0	191	1	0	192
		重複	0	34	0	0	34
		小計	0	285	2	0	287
	そ の 他	精神疾患・精神障害	0	18	0	0	18
		慢性疾患・機能障害	0	5	1	0	6
		知的障害	0	1	0	0	1
		上記以外	0	0	0	0	0
小計		0	24	1	0	25	
計		1	441	4	0	446	
構成比 (%)		0.2	98.9	0.9	0.0	100.0	

※学科（専攻）の分類は、学校基本調査の手引の「学科系統分類表」による。

3. 授業以外の支援の実施状況

(1) 授業以外の支援実施校数

平成 25 年度の調査によれば、授業以外の支援を実施している学校は 539 校であった。障害種別の支援実施校数は、「視覚障害」が 88 校、「聴覚・言語障害」が 141 校、「肢体不自由」が 277 校、「病弱・虚弱」が 145 校、「重複」が 61 校、「発達障害」が 336 校、「その他」が 220 校となっており、最も多いのは「発達障害」、次いで「肢体不自由」

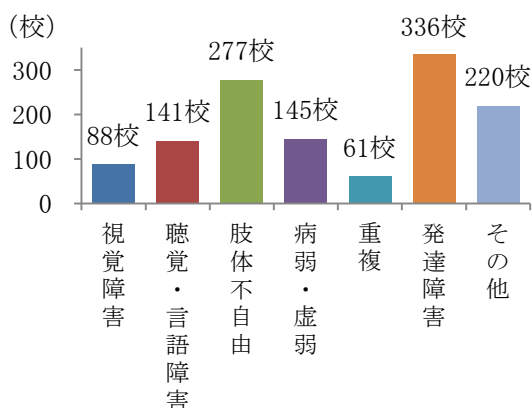


図34 【障害種別】授業以外の支援実施校数 ※平成25年度

となっている（図 34）。特に「発達障害」は授業支援よりも授業以外の支援が多くなっていることが特徴的である（図 29、35）。また、「聴覚・言語障害」は授業支援の実施校数は多い一方で、授業以外の支援は比較的少なくなっている。

障害種によって支援実施校数に差はあるが、いずれの障害種も増加傾向にあり、授業支援にとどまらない障害学生支援の実施が読み取れる。

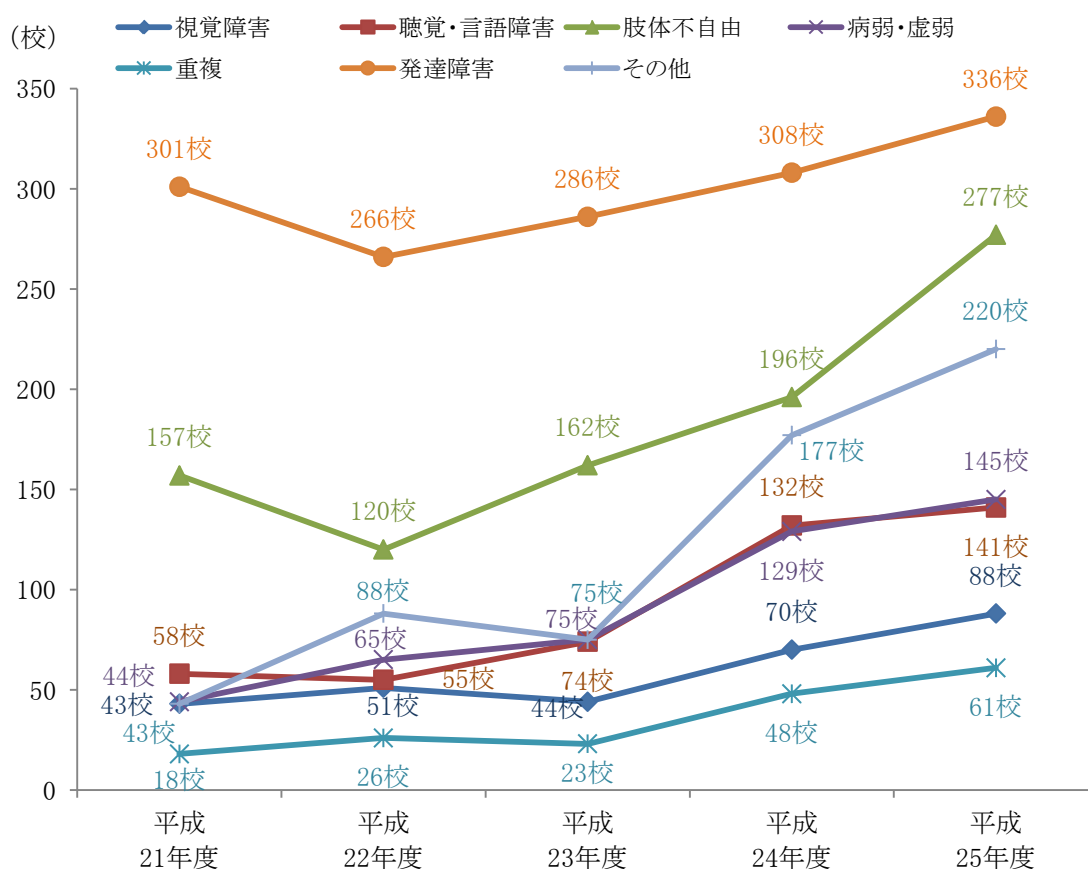


図35 【障害種別】授業以外の支援の推移

(2) 授業以外の支援実施状況

平成25年度の調査によれば、授業以外でも様々な支援が実施されていることがわかる(表4)。

表4 【障害種別・内容別】授業以外の支援実施校数 ※平成25年度

	視覚障害		聴覚・言語障害		肢体不自由		病弱・虚弱		重複		発達障害		その他		実施校数 (校)	実施率 (%)
	実施校数 (校)	実施率 (%)	実施校数 (校)	実施率 (%)	実施校数 (校)	実施率 (%)	実施校数 (校)	実施率 (%)	実施校数 (校)	実施率 (%)	実施校数 (校)	実施率 (%)	実施校数 (校)	実施率 (%)		
学習指導(履修方法、学習方法等) ⑩	46	52.3	59	41.8	64	23.1	30	20.7	20	32.8	229	68.2	102	46.4	309	57.3
進路・就職指導⑩	53	60.2	90	63.8	110	39.7	60	41.4	27	44.3	183	54.5	76	34.5	294	54.5
社会的スキル指導(対人関係、自己管理等)⑩	12	13.6	32	22.7	31	11.2	22	15.2	8	13.1	195	58.0	77	35.0	233	43.2
生活指導(食事、洗濯等)⑩	5	5.7	6	4.3	12	4.3	11	7.6	3	4.9	69	20.5	30	13.6	89	16.5
発達障害支援センターとの連携	0	0.0	0	0.0	2	0.7	1	0.7	1	1.6	102	30.4	18	8.2	108	20.0
特別支援学校との連携	8	9.1	10	7.1	7	2.5	0	0.0	2	3.3	14	4.2	2	0.9	37	6.9
出身校との連携	17	19.3	23	16.3	26	9.4	6	4.1	7	11.5	72	21.4	11	5.0	112	20.8
保護者との連携	35	39.8	47	33.3	120	43.3	52	35.9	29	47.5	279	83.0	136	61.8	397	73.7
専門家(臨床心理士等)による心理療法としてのカウンセリング⑩(※本音まない)	8	9.1	16	11.3	20	7.2	24	16.6	6	9.8	225	67.0	124	56.4	275	51.0
通学支援(自動車通学の許可、専用駐車場の確保等)	11	12.5	5	3.5	157	56.7	20	13.8	14	23.0	14	4.2	13	5.9	180	33.4
生活介助(体位変換、トイレ介助等)	0	0.0	0	0.0	50	18.1	4	2.8	4	6.6	1	0.3	1	0.5	57	10.6
医療機器、薬剤等の保管等	2	2.3	4	2.8	7	2.5	26	17.9	6	9.8	4	1.2	7	3.2	41	7.6
介助者の入構、入室許可	13	14.8	10	7.1	82	29.6	11	7.6	19	31.1	12	3.6	9	4.1	107	19.9
その他	27	30.7	29	20.6	77	27.8	34	23.4	8	13.1	46	13.7	46	20.9	113	21.0
計	88	100.0	141	100.0	277	100.0	145	100.0	61	100.0	336	100.0	220	100.0	539	100.0

支援の実施率を障害種別に比較すると、「視覚障害」の授業以外の支援内容は「進路・就職指導」が60.2%と最も高く、次いで「学習指導」が52.3%、「保護者との連携」が39.8%などとなっている(図36)。

「聴覚・言語障害」の授業以外の支援内容は「進路・就職指導」が63.8%と最も高く、次いで「学習指導」が41.8%、「保護者との連携」が33.3%などとなっている。その他の項目も含めて「視覚障害」の授業以外の支援内容と同じような傾向がある(図37)。

「肢体不自由」の授業以外の支援内容は「通学支援」が56.7%と最も高く、次いで「保護者との連携」が43.3%、「進路・就職指導」が39.7%などとなっている。その他、「生活介助(18.1%)」「介助者の入構、入室許可(29.6%)」などの実施率が他の障害種に比べて高くなっている。「通学支援」や「生活介助」の必要性があることが特徴的で、授業以外での支援の重要性を示している(図38)。

「病弱・虚弱」の授業以外の支援内容は「進路・就職指導」が41.4%と最も高く、次いで「保護者との連携」が35.9%、「その他」が23.4%となっている。他の障害種に比べて「医療機器、薬剤等の保管等(17.9%)」の実施率が高く、特徴的である(図39)。

「重複」の授業以外の支援内容は「保護者との連携」が47.5%と最も高く、次いで「進路・就職指導」が44.3%、「学習指導」が32.8%となっている。その他、「介助者の入構、入室許可(31.1%)」や「通学支援(23.0%)」などが実施されていることも特徴的である(図40)。

「発達障害」の授業以外の支援内容は「保護者との連携」が83.0%と最も高く、次いで「学習指導」が68.2%、「専門家によるカウンセリング」が67.0%などとなっている。また、「社会的スキル指導（58.0%）」「進路・就職指導（54.5%）」「発達障害支援センターとの連携（30.4%）」「出身校との連携（21.4%）」「生活指導（20.5%）」と他の障害種に比べて授業以外の支援の実施率が高い。保護者・専門家・支援機関・出身校などとの連携が高くなっていること、また学習・社会的スキルの指導も高くなっていることから、支援の幅の広さが読み取れる（図41）。

また、いずれの障害種でも「進路・就職指導」の実施率が高くなっており、障害学生の就職には一定の課題があることが推測される。授業支援と同様に、授業以外の支援も様々な支援が実施されていることから、障害学生の支援は授業だけにとどまらず、授業に間接的に影響する学生生活の様々な場面での支援も実施していく必要があるのではないだろうか。

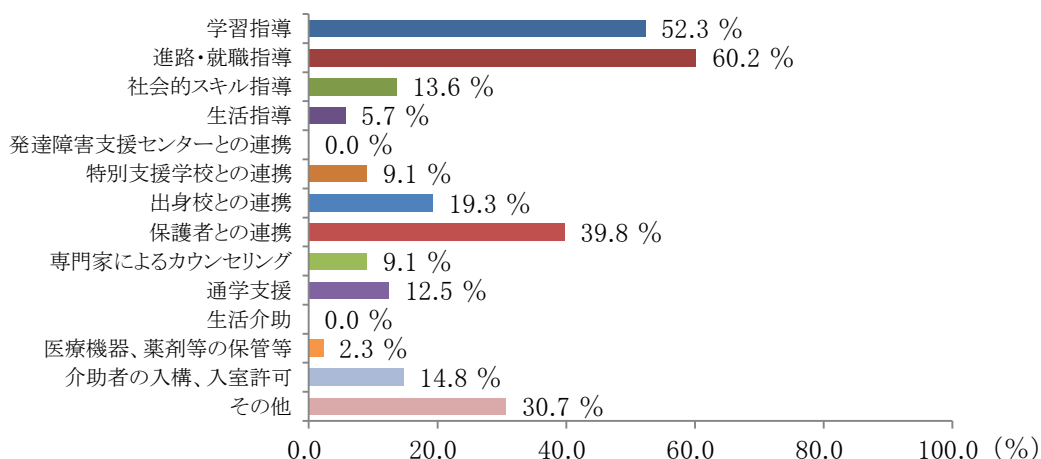


図36 授業以外の支援実施率（視覚障害）※平成25年度

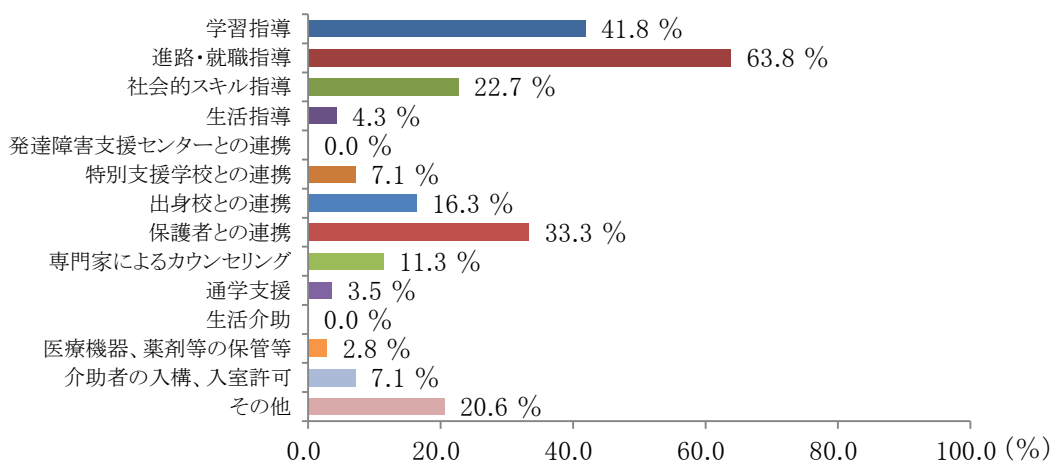


図37 授業以外の支援実施率（聴覚・言語障害）※平成25年度

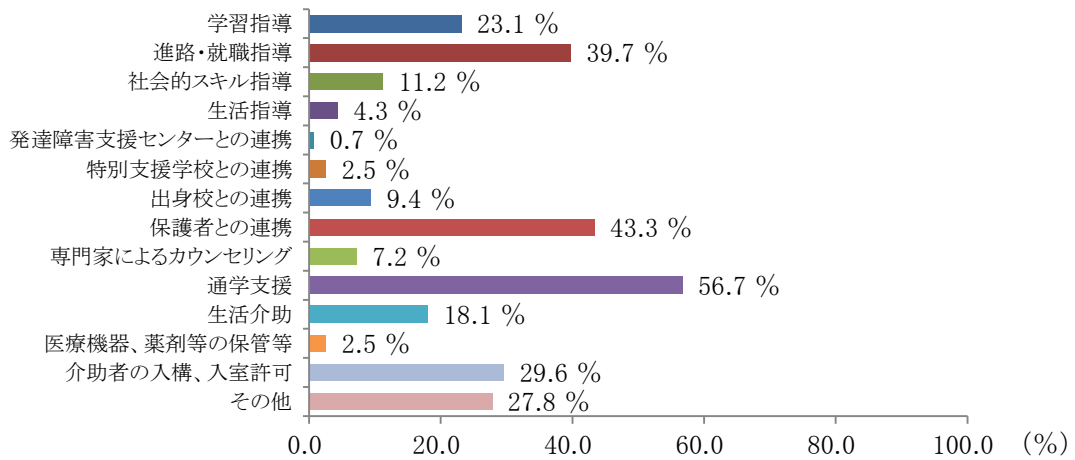


図38 授業以外の支援実施率（肢体不自由） ※平成25年度

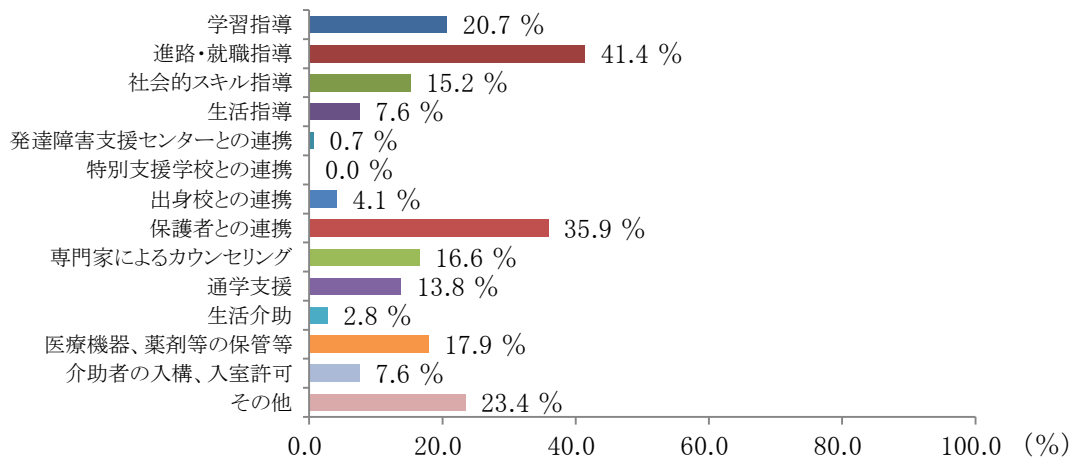


図39 授業以外の支援実施率（病弱・虚弱） ※平成25年度

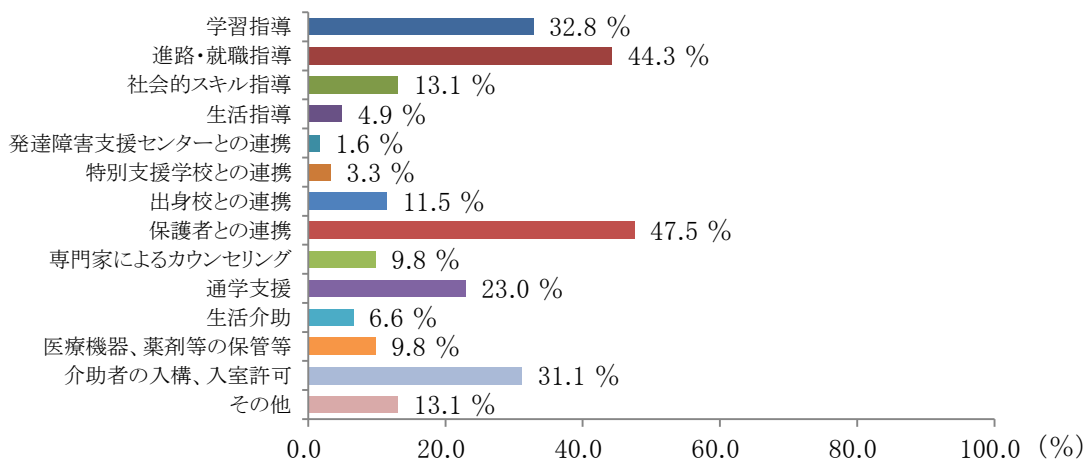


図40 授業以外の支援実施率（重複） ※平成25年度

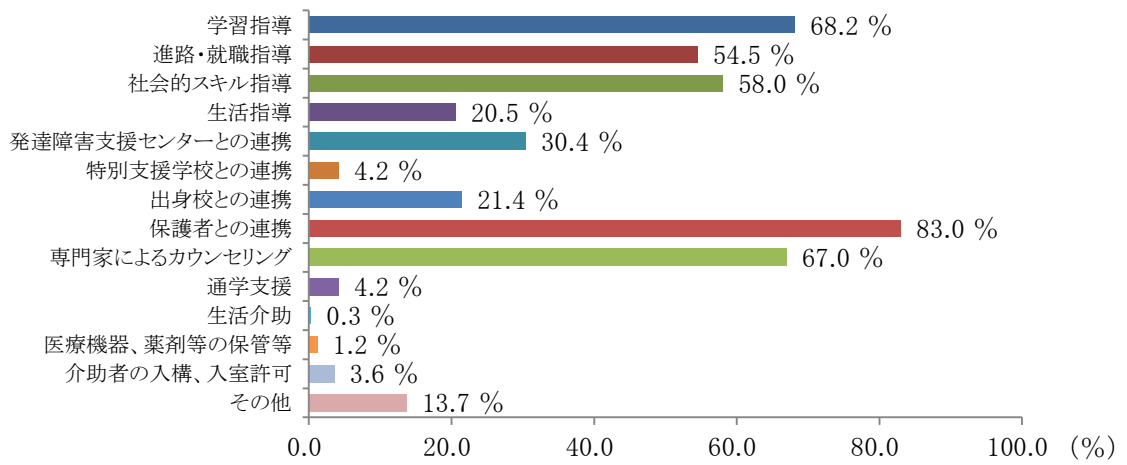


図41 授業以外の支援実施率（発達障害）※平成25年度